

〈解答〉

- ① 1 ア
2 老人に似た表情
3 A 感謝 B はしたない
4 ウ

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 ア「見本」は「訓読み＋音読み」（「見」の音読みは「ケン」、「本」の訓読みは「もと」）、イ「親子」は「訓読み＋訓読み」（「親」の音読みは「シン」、「子」の音読みは「シ」「ス」）、ウ「無口」は「音読み＋訓読み」（「無」の訓読みは「な（い）」、「口」の音読みは「コウ」「ク」、エ「半額」は「音読み＋音読み」（「半」の訓読みは「なか（ば）」、「額」の訓読みは「ひたい」となる。

2 本文の終わりから二つ目の段落にある「眉根にしわを寄せ、もくもくと鮭を口にはこんでいた」という表現が「無感動な表情」と一致していることに注目する。これを、直前の文で「老人に似た表情」と言い換えているのである。

3 食通と言われる人が、料理の味つけを批判するのを聞いた筆者は、自身の母親の言葉を使い起こしている。その母親の言葉とは、「料理についてとやかく口にするのははしたない」、「食事をする時、作った人への感謝を忘れてはならぬ」、「まずければだまっている。うまければおいしいと感嘆するのが、料理を作る人への思いやりだ」といったもので、母親のこれらの言葉を思い出した筆者は、食通と言われる人に対して、「はしたない」「感謝を忘れている」「思いやりがない」と非難しているのである。

4 本文の第四段落にある「時おりうっとりするほどおいしいと感じる食物に出会う。それは、私が食通と無縁の人間であるからなのである」という部分や、最後の段落にある「美味なものを早くも口にしてしまった子供は、食物をおいしいと感じることの少ない人間として成長する。はなはだ不幸なことと言うべきではないだろうか」といった部分から、「美味な食物を多く知りすぎないほうが、より多くの幸せを感じられる」とある、ウを導き出す。また、ア「（粗末なものを食べさせ続けることで）正常な金銭感覚を子どもに身につけさせることができる」、イ「自分の体験と科学的な見地に基づき」、エ「（食通と呼ばれる人の多くは）尊敬するに値しない人物である」の部分が適当ではない。